



## 文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援 日本社会のグローバル化を牽引する 全国の私大12大学に選定

本学は、文部科学省が2014(平成26)年度より実施する「スーパーグローバル大学創成支援 タイプB(グローバル化牽引型)」に、構想名「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」を申請し、9月26日付で採択を受けました。

### 「スーパーグローバル大学創成支援」とは

現在、世界は社会・経済・文化のグローバル化が急速に進み、その中で日本が世界に後れを取らずに発展していくためには、大学における国際競争力の向上と、グローバルに活躍できる人材の育成が不可欠です。そのため文部科学省は大学の国際化を重点支援するために「スーパーグローバル大学創成支援」を2014(平成26)年度よりスタートしました。

「スーパーグローバル大学創成支援」には2つのタイプがあります。「タイプA

(トップ型)」は世界ランキングトップ100を目指す力のある大学への支援、もうひとつの「タイプB(グローバル化牽引型)」は、これまでの実績を基にさらに先導的試行に挑戦し、日本社会のグローバル化を牽引する大学への支援です。本学は構想名「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」をタイプBに申請し、厳しい審査を経て採択されました。

このタイプBには、全国の国公私立大学から93校(私立大学38校)の申請

があり、うち24校(私立大学12校)のみが採択されました。

今後、2023(平成35)年度までの10年間にわたり国からの補助金を受けながら、大学の国際競争力の向上を図るために、徹底した「大学改革」と「国際化」を進め、学生のグローバル対応力育成のための体制構築や国際通用性の高い大学を目指した、新たな取り組みを推進していきます。

## 「哲学する姿勢」を基盤とする グローバル人財へ

現代は、グローバル化・ボーダーレス化した、国境がないも同然の世の中です。そういう状況にあって「国際社会に対応できる人財を育成していくこと」、つまり『グローバル人財』の育成が今や大学としての重要な使命であると考えています。本学では、すでにこれまでも時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自らの未来を切り拓くことのできるグローバル人財の育成に取り組んできました。このたび「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された構想もこの延長線上にあります。

英語力、柔軟な異文化理解・対応力はもちろんですが、非常に重要だと考えているのが、自国の文化について深く理解し、それを他の文化に生きている人々に説明できるということです。「自文化理解・発信力」と呼んでいます。それらを身につけるためにも、学生の皆さんにはぜひ海外に出て、異文化に直に触れて欲しいと思っています。異文化を体験することで「深く掘り下げて考える」能力も磨かれます。これは、創立者の井上円了先生から連綿と続く、哲学の営みです。常識、時代の流行、先入観、偏見……そういうものを超えて深く考えることで、今まで見えていなかったものが見えてくる。そこに哲学の意味があります。これはどの学問を学ぶ上でも重要なことです。

井上円了先生は、海を渡るのも困難な明治の時代において、三度も世界を旅しています。しかし、決して「西洋かぶれ」にはならず、「日本の伝統、東洋の伝統を軸にして、傍ら西洋を学ぶ」方針を樹てました。そして2回目の旅の後に、「これからは海外で日本人が働いていけるように教育をするべきだ」と打ち出しています。語学教育についても、会話や仕事で使える語学、それに力を入れる必要があると言っています。本学のグローバル化は、創立者の経験に裏打ちされ、引き継がれてきているのです。

※本学は、「人は財産である」という意味から「人財」という言葉を使用しています。



東洋大学 学長  
竹村 牧男

### スーパーグローバル大学創成支援採択大学

#### タイプA: トップ型 13校

- 国立大学(11校)  
北海道大学／東北大学／筑波大学  
東京大学／東京医科歯科大学  
東京工業大学／名古屋大学  
京都大学／大阪大学／広島大学  
九州大学
- 私立大学(2校)  
慶應義塾大学／早稲田大学

#### タイプB: グローバル化牽引型 24校

- 国立大学(10校)  
千葉大学／東京外国語大学／東京芸術大学／長岡技術科学大学／金沢大学  
豊橋技術科学大学／京都工芸繊維大学／奈良先端科学技術大学院大学  
岡山大学／熊本大学
- 公立大学(2校)  
国際教養大学／会津大学
- 私立大学(12校)  
国際基督教大学／芝浦工業大学／上智大学／東洋大学／法政大学  
明治大学／立教大学／創価大学／国際大学／立命館大学／関西学院大学  
立命館アジア太平洋大学

# TOYO GLOBAL DIAMONDS

グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して

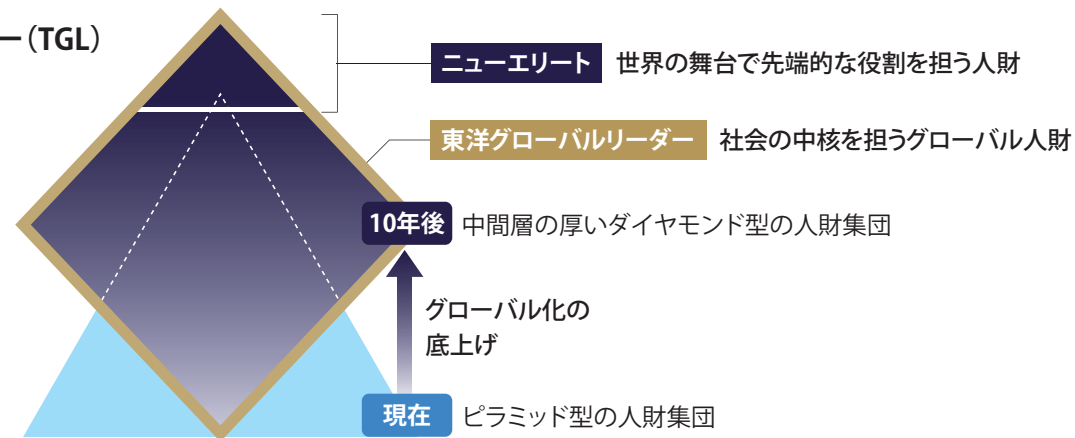
Becoming an Asian hub university for global leaders

創立者・井上円了は、明治時代に単身での世界規模の視察を三度にわたって行った国際人でした。本学はこの創立者の目指した国際化を引き継ぎ、時代の要請に応えるべくグローバル教育に取り組んできました。

今回採択された構想「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」は、徹底した「大学改革」「教育改革」を進めるとともに、ダイヤモンドの原石である学生を輝きを放つ『グローバル人財』へと成長させる教育を実践し、日本社会のグローバル化を牽引する人財へと育成していきます。また、エリートから中核となる人財まで幅広く育成することで、学生のグローバル化の状態を現在のピラミッド型の構造から中間層の厚いダイヤモンド型へと変革していきます。

## 東洋グローバルリーダー(TGL)プログラムの導入

東洋グローバルリーダー(TGL)



2015(平成27)年度より「東洋グローバルリーダー(TGL)プログラム」がスタートします。TGLとは、国際社会の中において、現場主義に根ざし、異なる社会・文化・慣習を理解・尊重し、課題発見・問題解決することができる、社会の中核を担う人財を指します。このような人財を育成するTGLプログラムは、英語力、海外留学経験、学内留学プログラム「Study Courses IN English (SCINE)」や英語による専門科目の修得、英語での卒業論文執筆、国内外インターンシップ・国際ボランティアへの参加、東洋グローバルリーダーキャンプへの参加・運営、学生NPO・ベンチャーへの所属・運営などを要件とし、その参画度合いや成果をポイント化することで、TGLとしてゴールド、シルバー、ブロン

ズのいずれかに大学が公式に認定していくものです。これら国際交流活動は4年間の学生生活において重要な位置付けとなることから、記録を可視化するためEポートフォリオの活用なども行っています。

一方で、世界の舞台で先端的な役割を担う「ニューエリート」の育成を推進するため、少人数制の新しい教育組織の設置を検討しています。ここでは、入学者の30%が留学生という環境のもと、全授業を英語で行い、1年間の海外留学を必須とするなど、多国籍企業の中にあってもリーダーとなれる人財を育成していきます。

## グローバル化を推進するための大学改革



## 国際競争力を高める取り組み

柔軟な国際編入制度を導入・促進し、単位の互換性を高めるなど国際通用性の高いプログラムを展開し、世界各国から留学生を受け入れます。これにより、留学生の受入が拡大するだけでなく、本学から海外大学への編入ルートも確保。留学先の選択肢が多様化します。

また、在学生だけに留まらず全世代を対象にしたグローバル教育を行うため、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)との共同事業による、社会人向けグローバル教育の実施や幼稚園・小・中・高の児童生徒、シニアを対象としたプログラム等も

あわせて企画しています。社会人向けにはビジネス英語やMBA予備教育、海外大学院留学のための準備講座、大学および中高教員向け英語研修などを、その他の世代には対象に応じた英語プログラムや留学支援プログラム、海外研修などを検討中です。

なお、文部科学省による10年間の支援終了後もスーパーグローバル大学としての活動を継続するために、外部資金獲得を視野に入れた、事業法人化による教育プラットフォームも構築していきます。

※本内容は構想段階のものであり、変更になる場合があります。